

## 亀の池『石組みオブジェ』

明治17年5月、関ヶ原-大垣間に東海地方初の鉄道が開通し誕生した大垣駅。

昭和16年には、駅南口に防火貯水池が設置されることになり、美観上、庭園化を図るため噴水池になりました。噴水池の中心には、大垣市出身の彫刻家 中村輝氏（1913-1993）が設計した万成石（まんなりいし）による石組みオブジェが設置され、昭和17年2月に竣工しました。この池の中に亀がいたことから「亀の池」の愛称で呼ばれるようになり、休憩や待合場所として長く市民に親しまれてきました。

この石組みオブジェは、駅舎及び南口広場の整備に伴い、昭和59年に原形のまま丸の内公園に移設しましたが、大垣駅南街区広場の整備により再移設しました。

● 大垣駅南口（昭和 30 年撮影）



● 亀の池（昭和 30 年撮影）



● 『石組みオブジェ』（昭和 36 年撮影）



● 大垣駅南口（昭和 57 年撮影）



● 丸の内公園 『石組みオブジェ』  
(平成 29 年撮影)



● 再移設した『石組みオブジェ』  
(平成 30 年撮影)



水都の泉  
SUITO NO IZUMI



大垣駅南街区広場



大垣市都市計画部市街地整備課

大垣市丸の内 2 丁目 29 番地  
TEL : 0584-47-8406(直通)  
Mail : shigaichiseibi@city.ogaki.lg.jp



大垣市マスコットキャラクター  
おがっけい&おあむちゃん

平成30年3月作成

# 水都の泉

## SUITO NO IZUMI

大垣駅南街区広場は、大垣駅南街区第一種市街地再開発事業により生み出された公共空地を利用して市が整備を進めてきました。

この敷地には、民間の建物がありましたが、市街地再開発事業の権利変換によって、土地・建物の権利の付け替えを行い、敷地を生み出しています。



### 施設概要

#### 【名称・所在等】

名称：大垣駅南街区広場(愛称：水都の泉)  
 所在：大垣市高屋町一丁目63番地  
 面積：1142.24㎡  
 親水池：すり鉢状に深さ1.5m掘り下げ、自噴井戸、石組みオブジェ、じゃぶじゃぶ池を設置  
 イベント用スペース：約400㎡

#### 【主な施設】

##### ■自噴井戸

自噴箇所：井戸舟、湧水たまり(3か所)、オブジェ中央  
 井戸深度：210m  
 井戸口径：150mm  
 自噴量：700ℓ/分(季節変動有)  
 水質：厚生労働省告示水質基準適合(原水40項目)

##### ■水景装置

演出噴水：オブジェの周り8か所からオブジェ中央に向かって放射噴水。  
 じゃぶじゃぶ池の中6か所から水が飛び出す垂直噴水。

##### ■休憩施設

柵兼用ベンチ：L=83.3m(ベンチ柵)  
 普通ベンチ：4基  
 車輪ベンチ：2基  
 パーゴラ：1基

##### ■照明施設

ソーラー照明灯：3基  
 フットライト：5基  
 電源照明灯：2基(コンセント付き)

##### ■安全施設

防犯カメラ：4基

#### 【事業経緯】

平成28年12月 敷地を取得  
 平成29年2月 整備工事着工  
 平成30年3月 完成

#### 車輪ベンチ

かつてあった旧国鉄大垣貨物駅。その名残で貨物用車掌車の車輪を再利用したベンチ。



#### 井戸舟

亀の甲をイメージした六角形の井戸舟。石組みオブジェと同じ万成石(まんなりいし)を使用。



#### 湧水たまり

じゃぶじゃぶ池の中にある湧水の水たまり。



#### ベンチ柵

親水池の周りに柵兼用のベンチを設置。



#### パーゴラ

日差しをやわらげるパーゴラ。



#### 夜間演出

夜間は光ファイバーライトで色鮮やかな、動きのある噴水を演出。

